
おい！宮田！！～愛あればこそ～

姉子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おい！宮田！〜愛あればこそ〜

【Nコード】

N9281E

【作者名】

姉子

【あらすじ】

戻ってきました、田中良子です。実はいろいろ事情が変わったんで、よかったら見てってください。（「おい！宮田！！」の番外編ですので、そちらを先にご覧ください）

みなさん、ごきげんよう。

覚えてますか？田中良子です。

最近私の知り合いがフラダンス始めたらしいんですけど、どうにもこうにもなっていないらしいです。

まずフラダンスというチョイスにもいささか疑問をもった私ですが、今ではもうどうでもいいことです。

そうです、どうでもいいです。

「聞いているー？良子ちゃん？」

「黙ってください、普通に歩いてください、気持ち悪いです。純粋に気持ち悪いです」

「フラダンス馬鹿にすんなよ?!あれはなーいいんだ!とってでもいいんだ!」

「フラダンスについては馬鹿になんてした覚えはありません。とりあえずその妙な腰の動きを止めないと縁を切ります」

「ああ!嫌!やめて!もうやめるから!ごめんって!」

そしてさらにどうでもいいことに、私は何をとち狂ったのか、この男宮田太郎と付き合うことになってしまいました。

本当に自分自身、呪い消し去りたい勢いです。

「なー今度の日曜さー」

「遠慮します」

「まだ何も言っていない!」

「どうせまたフラダンスの練習について来いとも言うんでしょ? もうまっぴらごめんですね。ありえませんが。初デートがフラダンス見学なんてありえませんが。くたばってしまえ」

「さりげなくくたばってしまえって言ったー?! ああー冷酷だよーこの子心底鬼だよー」

「最高のほめ言葉です」

まあ、こうなってしまったたら楽しんだ者の勝ちってやつです。いたぶっていたぶっていたぶってしまえば、多少気持ちも晴れます。もちろんそこに愛はありますから、心配無用です。一時の気の迷いといえども、私は太郎が好きです。

私が本命の三宅君に告白して残念なことに振られたとき、ちやかしたのも励まし慰めたのも彼ですから。

最初「やっぱ振られたー?」と言われたときはさすがに股間を蹴り上げてしまいました。

悶絶しながら「やべっ、マジやべっ!」と言ったのは思い出しただけで笑いがこみ上げます。

それから急に「付き合ってくれ」ですよ?

わけわかりませんよね。

まあ承諾した私が一番わけわかりませんけど。

それにしても・・・あの悶絶風景は写真におさめるべきでした。

「良子ちゃん・・・？わ、笑ってる・・・？」

「これが笑わずにいられますか」

「あつはー良子ちゃんやっぱ笑ったほうがかわいいー」

ああ・・・この男は確かに阿呆です、馬鹿です、恥ずかしいです。

さっきの会話で私をかわいいだなんてよく言えますね。

私だったらこんな女お断りですよ。

「良子はさー、もっと笑ってるほうがいいよ？毒舌もいいけど俺は笑ってる良子が一番好きだな。何しろかわいい」

「・・・」

「ん？テレビちゃった？俺の愛のささやきに胸キュンしちゃった？」

「黙ってください、別れますよ？」

「嫌だ！！っーかほめて別れを切り出されるってどゆこと？！世の恋愛事情でも特例だと思っけど？！」

「いいじゃないですか、特例って、いい響き」

「ああ！良子ちゃんが猛烈笑顔全開なのにまとうオーラが黒いよ！俺失禁してまうー！」

「そのときこそ、お別れの時ですね」

「いやーだー！！！」

本当に・・・ねえ？

わかるでしょ？

照れてるのがわかってるのにあえてそこに突っ込んでくるこのデリカシーのなさと幼稚さといったら。

本当に現役高校生なのか疑ってしまいます。

でもまあいいです、許しますよ。

うれしかったから。

「・・・日曜日、映画なら行きますよ」

「マジで？！ちょうど映画にさそおっかなーと思ってたんだ・・・って、俺ら以心伝心？！うーわー相性バツチリー」

「ぐだぐだうるさいですよ、もう少し静かにしてください」

「仮にも彼氏に向かって・・・！おい、もうちょっと俺に優しくしてくださいー！」

男らしく言っただつもりでしょうか。
甘いですね、でもたまには私だって言うときは言いますよ。

「好きだよ、太郎」

ファイティングポーズのままぼかんと口を開けたまま立ち止まる太郎。

見なさい、私のほうがよっぽど男らしい。

まあ自分でわかるくらい顔に熱があるので私もまだまだですけど。

「あ」

「あ?」

真顔になったかと思うと手をぎゅっと握ってきたりなんかして。
こっちなんか見もしないで。

「愛してるぞ、良子」

本当に恥ずかしい男です。

(後書き)

ああ・・・本当、いろいろすいません。

「お前幼稚園はどうした?」「なんて言葉は聞きません、聞こえませんが。」

・・・・・・・・リハビリです!見逃してやってください!突然2人の愛に目覚めました!それだけです!許してください!

これからもどうぞよろしく!!!!!!(土下座)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9281e/>

おい！宮田！！～愛あればこそ～

2010年10月29日13時17分発行